

2019 年度 Joint Education Program による授業実施報告
夏期集中講義 *Language revitalization and community engagement*
2019 年 7 月 22 日 (月) ~7 月 24 日 (水) 東京外国語大学にて開催

本事業活動では、協定校であるタイのマヒドン大学アジア言語文化研究所(Research Institute for Languages and Cultures of Asia, Mahidol University)より Dr. Sumittra Suraratdecha 氏を講師として招聘し、「*Language revitalization and community engagement*」というタイトルで授業を開講した。授業は3日間の集中講義として行われ、学部1年生から4年生まで幅広い範囲の専攻語からの受講があった。言語接触の結果として生じる伝統言語の弱化現象に対してどのような対応を取ることができるかという問題を、現地コミュニティとの協働に基づいた再活性化活動の手法を中心に解説し議論する内容であった。扱う現象が狭い意味での言語の研究ではなかったということもあり、受講者の多くは言語学の背景知識を持たなかったが、この授業を通して言語の問題への関心が喚起されたようであった。

初日の授業では、言語研究の概略とその中での社会言語学の位置付けから始まり、言語接触の中で少数民族言語が晒されがちな社会・経済的圧力、そうした環境の中での伝統言語の衰退のメカニズムについての講義があり、さらにタイの少数民族黒タイ族のコミュニティにおける言語状況とその再活性化プロジェクトのケーススタディーについての解説があった。2日目は、伝統言語・文化とアイデンティティーの結びつき、伝統の保持の難しさなどに関して受講生自らが選んだトピックについて、実際にインタビューを行いデータを収集するという実習を行い、その日の後半の授業時間でそのデータを確認し、講師や他の受講生からのコメントを得ながらデータの分析や考察を行った。最終日3日目は、調査結果に基づく暫定的な分析・考察とこれからの研究への繋げ方について発表と議論を行い、さらにこれからの調査研究に役にたつであろう研究方法論の補足的講義が行われ、終了した。

授業はすべて英語で行われたが、受講者は全員英語能力が高く、質問やディスカッションへの意欲が高かったため、有意義な議論をすることができた。授業の最後に行ったフィードバックセッションや授業後のコメントでは、受講生が各自インタビュー調査のプロジェクト課題が与えられたことが大変好評で、主体的な学びが豊かな授業となったことがうかがえる。また、この授業で扱った内容は他の授業では聞くことができないものであったため、今回の特別講義が非常に意義深いものであったとの感想も多く寄せられた。

2019 年 7 月 29 日 アジア・アフリカ言語文化研究所 中山俊秀

